

- 市内を走る路線バスの大半が赤字路線となっており、公共交通の維持が限界に差し掛かっている状況。
- 特に需給がアンバランスな路線について、交通ネットワークを再構築することで利便性を向上させ市民の移動手段を守る取組を進める必要がある。具体的には、沿線住民が少なく長大路線でありバス事業者単独での維持は困難となっている路線バス小深線（石見川系統）の見直しを行う。

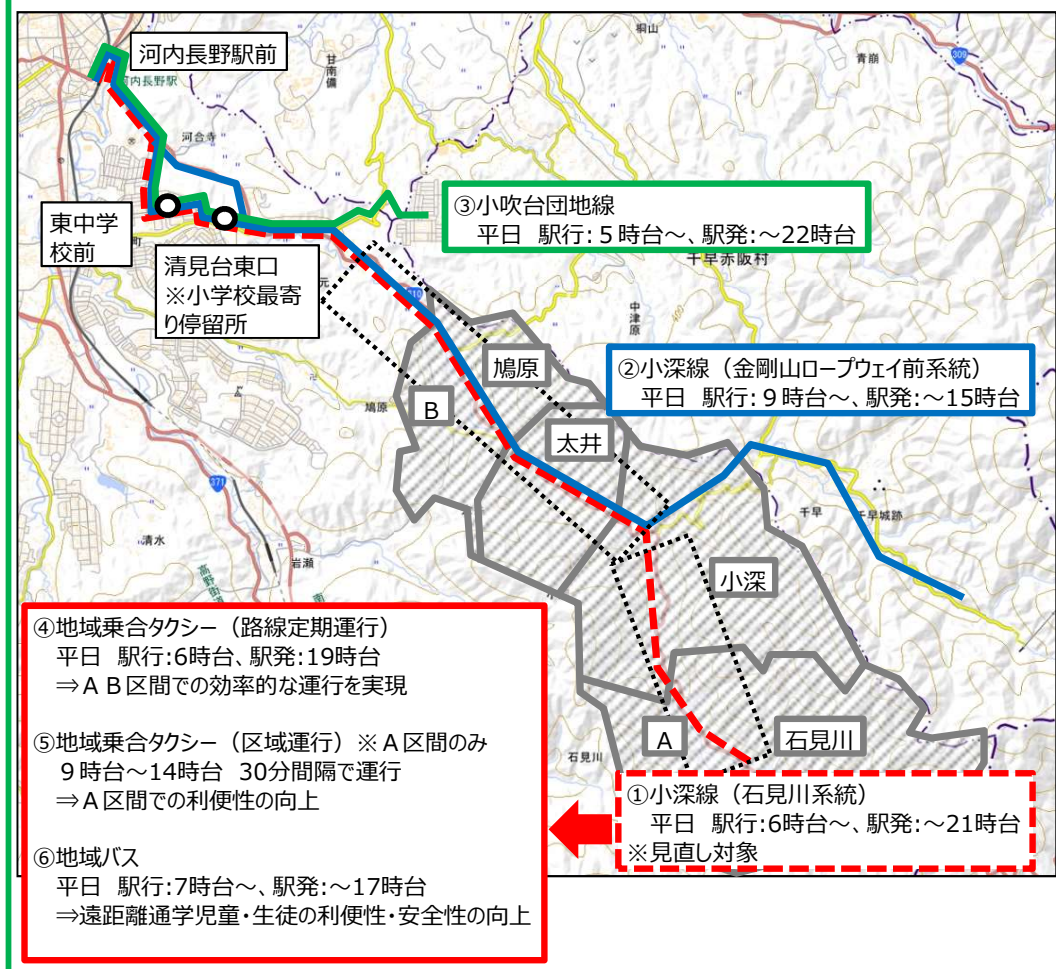
事業の内容

- **地域乗合タクシー（路線定期運行）の導入**
通勤、通学を対象として、石見川・小深・太井・鳩原と河内長野駅間を最短ルートで運行。⇒河内長野駅までの所要時間33分から29分に短縮。
- **地域乗合タクシー（区域運行）の導入**
日中の移動手段がなかった石見川・上小深地域において、当該地域と河内長野駅に乗降ポイントを設けてデマンド運行を導入。⇒30分間隔での予約運行。
- **地域バスの継続実施**
スクールバスとしての機能を核とし、石見川・小深・太井・鳩原地域と小中学校、河内長野駅間を運行。地域乗合タクシーとともに地域住民の交通手段を相互補完的に提供。

事業の効果

- ①地域の需要に合わせたルート設定により、効率的な運行を実現
 - ②学校活動に合わせた運行による遠距離通学児童・生徒の利便性や安全性の向上
 - ③市、地域住民、交通事業者の三者協働での取組による持続可能性の向上
- ⇒ 河内長野市が目指すべき将来の姿である「将来も安心して生活でき、住み続けられるまちを支える公共交通」の実現

概略図



- ・作成自治体 大阪府河内長野市
- ・事業実施区域 河内長野市 (石見川、小深、太井、鳩原)
- ・事業実施予定期間 R5年4月～R10年3月